

# KEYAK!

2月号

新年早々皆様にはご迷惑とご心配をおかけ致しました。その間雪かきという過酷な作業がなかったのは幸いでした。まだ絶対やりませんが、多分もう走れます。

体が動かず、とても園が近くて遠いものになり、そのおかげかたまに松葉杖について園に出向くと、子どもたちが寄ってきて「足治った?」「大丈夫?」などと声をかけてきてくれます。怪我をしていなければ言われない言葉で、そんなところから思いやりや他者への気遣いなどの彼らの気持ちの育ちを感じたりしました。年少さんでも、始業式で車椅子に乗っている私を不思議そうな目でずーっと見ている子がいました。言葉にしなくてもその子が何かを感じているのが分かりました。持っている感情や気持ちは、小さいなりに大人のそれと同じ。子どもたちに、普段目に見えないようなことが形となって現れてくれることを嬉しく思います。シーン。

人を気遣う面は大人と同じ。一転、大人と違うのは彼らの頭の柔らかさです。大人も以前は子どもだったはずなので「同じ」なのですが、圧倒的に子どもたちのほうが上だと思っています。こどもかいを見ても現在進行中のさくひんてんへの取り組みを見ても、ひと言でなくふた言でいえば「理屈じゃないところ」と「子どもたちの勢い」でしょう。さくひんてんでは、完成品（成し遂げたもの）を見て、そこに至るまでの彼らのすったもんだと勢いを感じていただきたいと思っています。衰えないコロナ禍ではありますがなんとしても見ていただきたい。状況判断にはなるとは思いますが、観覧の際には、皆様のディスタンス等の意識のご理解とご協力が何より不可欠です。何卒よろしく願いいたします。

最後に子どもたちに小声で言おう。君たちはすごいね。